

高瀬舟

「利根川(上州)高瀬舟」は、瀬の浅い川を進むための知恵と技を凝らした超大型船です。船首の反りが大きく、底が平らで幅の広いシキ(底板)が特徴で、船体を軽くするために板材を薄くし、アバラ、カメ、トネギなどの補強材を使っています。米俵200俵を積んで運行することができました。

再建した「高瀬舟」「揚舟」「田舟」

設 計 者：【高瀬舟】平野雅一（横濱市船政財団） 【揚舟】【田舟】砂質良夫

船 大 工：(株)森造船 砂質良夫（邑楽郡明和町斗合田）

森造船所 森 栄一（茨城県猿島郡境町）

施工(建造)費：5,827,500円（文化庁「ふるさと文化再興事業」により全額補助）

事 業 者：板倉町伝統的水郷空間活性化委員会

【高瀬舟】（実物の約1/3） 全長：8.0m・全幅：2.07m・中央部深さ：0.59m・帆柱長：6.6m・帆桁：3.59m

【揚 舟】（水害時の用心船） 全長：7.0m・全幅：1.6m・中央部深さ：0.36m

【田 舟】（湿田などでの運搬） 全長：1.3m・全幅：0.8m・中央部深さ：0.18m

水運

利根川と渡良瀬川に挟まれた板倉町は、古代より、水の恵みを受けると同時に、洪水に悩まされ、水との共生を図ってきた歴史があります。そこには水と共生するためのさまざまな「知恵」が生まれ、「文化」が生まれ、そして継承してきました。「田舟」や「揚舟」もその一つです。また、江戸時代には、利根川や渡良瀬川が物資輸送の大動脈となり、河川舟運用として「高瀬舟」が活躍しました。このように「舟」は、生産や交通・経済などの面において、私たちの生活を大きく支えるものでした。

